

○議長（井上光三君）

続いて、通告2番 2番樋口正訓君の一般質問を行います。

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

2番樋口です。早速ですが、本町の歴史遺産についての質問です。

始めに、平成22年3月8日に増穂町と鯉沢町が合併して、富士川町が誕生しました。今年で10年を迎えました。この節目を祝い、町民とさらなる一体感を築くため、10周年記念「山車巡行祭り」が11月4日に開催されました。5年ぶりの開催となり、巡行する4台の山車は町の有形文化財に指定され、雅な山車の他、神輿、万灯行列など、旧国道52号線沿いには70店舗以上の店が並び、ステージイベントなどで賑わいました。山車巡行祭りの開催にあたり、祭りのメインでもある町の有形文化財の保存等に関する質問です。

先般、沖縄では、世界遺産に登録されている首里城の正殿を、火災で焼失してしまいました。本町において、有形文化財の「山車」4基の保存についての防火・防災対策について伺います。

○議長（井上光三君）

生涯学習課長 深澤千秋君。

○生涯学習課長（深澤千秋君）

ただいまの山車の防火防災対策についてのご質問にお答えさせていただきます。現在、4台ございます山車は保存会ごとに保管されております。上町の山車以外は、解体された状態で保管されている状況であります。

山車が保管されております4か所の倉庫につきましては、防火設備等が十分でないため、防火対策や防災対策が万全とは言えない状況でございます。

有形文化財に対しましては、町では、文化財保護事業に対する補助金制度がございます。

こうしたことから、今後は町の補助金を活用しながら、防火対策や防災対策をしていただくよう、保存会を指導して参りたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問をお願いいたします。山車の構造は、そのほとんどが木製であり、それぞれの保管場所には消火設備等の備えはあるのでしょうか。

○議長（井上光三君）

生涯学習課長 深澤千秋君。

○生涯学習課長（深澤千秋君）

ただいまの消火設備についてのご質問にお答えいたします。

保管倉庫でございますが、消火器がわずかに設置されている状況でございますので、保存会とともに施設全体を再度確認させていただき、不備などを把握して改善に向けていきたいと思っております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

その点は、大至急確認していただいて、よろしく願いいたします。

再質問です。山車の組み立てから完成までは、将来的に継承をする後継者の育成などを考えておられるのでしょうか。

○議長（井上光三君）

生涯学習課長 深澤千秋君。

○生涯学習課長（深澤千秋君）

ただ今の山車の組み立ての後継者育成についてお答えいたします。

山車の組み立ては、これまで地元の工務店のご協力をいただき、保存会ごとに作業が行われているところでございます。組み立てにおきましては、木材の確実な組合せなどが必要で、知識と熟練した技術が必要でございます。伝統継承のためには、組み立てを行える育成は必要と考えておりますが、保存会で組み立てて経験のある方が、現在若手の方に指導している状況でございます。引き続き、技術を伝えていくよう、お願いしていきたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ぜひ、伝統的な行事ですので、その点よろしく願いいたします。

再質問お願いいたします。山車は巡行後に修繕が必要であると伺っております。その費用の概算と捻出方法はいかがでしょうか。

○議長（井上光三君）

生涯学習課長 深澤千秋君。

○生涯学習課長（深澤千秋君）

ただいまの山車の修繕についてのご質問にお答えいたします。

山車の修繕につきましては、これまで山車巡行祭りの際に、町の文化財保護事業補助金や宝くじを原資としたコミュニティ助成事業などを使っていただいて修繕しているところでございます。

費用につきましては、そのときの破損状況にもよりますので一概には言えませんが、今後も、そういう補助事業を使いながら、できるだけ地元の負担を軽減しながら、助成金を活用して修繕のほうを進めていきたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

その点、また検討していただいて、よろしく願いいたします。

お祭りは多くの関係者の協力により町内外から5万人が訪れ、産業振興課によると、特別列車とウォーキングや、また町でJR東海も含めて計画をしていた特別列車には、定員148名すべて完売と、ウォーキングでも370名の参加があったと伺っています。さらに産業振興課では次回の開催に向けて、日本の文化に興味を持つ国際交流協会にも呼びかけて、インバウンドの誘客にもつなげていきたいと、今後に向けた取り組みを頼もしく話していただきました。以上が文化財についての質問です。

次の質問に入ります。甲斐の国は周囲を3000メートル級の山に囲まれ、当時の江戸へのルートは笹子峠か岩淵、今の静岡県富士市までを、人力か馬の背に荷駄を付けて運ぶしかなかった。約400年前、徳川幕府からの名を受けた、京都の角倉了以らによる鰍沢から岩淵までの水路が、1612年に富士川舟運として開通しています。

信州往還と駿州往還の交わる鰍沢は富士川舟運の要衝地となり、拠点として大きく発展を遂げていっています。その主な積荷は「下げ米・上げ塩」と呼ばれ、特に陸揚げされた塩は「鰍沢塩」と呼ばれ、甲州はもとより、詰め替えられて信州まで運ばれております。昨年私は、信州の辰野町と箕輪町の教育委員会を尋ねました。町史を拝見すると、塩のことを「鰍沢」と呼んでいたことが記されておりました。他にも、鰍沢から当時派遣された、代々続くという雨畑硯の職人にも出会えました。その先人の築いた伝統と文化を、いかにして次の世代へ伝えていくのが私達の使命であると考え、この件に関する質問です。

富士川舟運をもたらした歴史遺産収集の活用方法について、現在までの収集状況と今後について伺います。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

ただいまの歴史遺産収集の活用方法について、お答えをいたします。

町では、江戸時代の物流拠点として栄えた富士川舟運の歴史を後世に伝えていくため、広報誌や新聞掲載などにより、舟運資料の情報提供を呼びかけております。こうした中、これまで36件の情報提供をいただいております。現在、情報をいただいた内容について、確認作業を進めているところでございます。収集した資料等の活用方法といたしましては、町が所蔵しております富士川舟運に関する資料、約400点も含め、展示施設などでの公開に向け検討を進めているところで

ございます。以上でございます。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

今の収集品の中に、特に貴重な資料があると思われます。それらの管理の方法などはいかがでしょうか。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

提供をいただきました資料につきまして、年代や資料の状態などを、現在確認作業を進めているところでございますけれども、特に、貴重とされる資料も中にはあると思われますので、それらの作業につきましては慎重に調査をしているところでございます。今後、これらの資料につきましては、所有者とも協議をする中で、その保管、管理方法等につきまして、今後検討していきたいと思っております。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問です。それでは、確認終了後に収集品についての一般公開を考えていると、こういうことでよろしいでしょうか。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

収集可能となりました資料につきましては、広く公開をする機会を増やしていくというようなことは、大変重要であるなというふうに思っているところでございます。収集されました資料等を、展示会とかホームページになんかも使えるかなと思いますけれども、それらによる一般公開というようなことも、資料収集と併せて検討していきたいと思っております。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ぜひよろしく願いいたします。

再質問です。県立博物館の中野学芸員を訪ねて舟運についての意見交換をしました。博物館では「富士川舟運展」を近く企画しているとおっしゃっていました。身近な話題にとっても嬉しく感じました。今後は町で収集された資料等を、博物館に貸し出すなどして「富士川舟運展」の実現に向けて、より以上の博物館との積

極的な連携を期待しますが、いかがでしょうか。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

ただいまの質問にお答えいたします。県立博物館には、常設展として「富士川舟運のコーナー」というようなものも大きく取り上げていただいているところでございます。

今後、舟運に関する資料の展示、それから、情報の収集というようなこともございますので、県立博物館とは連携を積極的に行って、研究をしていきたいなというふうに思っております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ぜひ、よろしく願いをいたします。以上、舟運の歴史遺産についての質問です。

次の質問に入ります。山車巡行祭りに併せて、鰯沢の原田商店、原田社長に約200年前の建物と土蔵の扉を開けていただけるようお願いしました。原田社長さんは、喜んで土蔵の扉を開けてくれました。当日は、テレビや新聞で紹介され、また、夕方のニュースでも放映されました。国の文化財にも登録されている建物は、現在でも事務所として使われております。山梨県立博物館の中野学芸員によると、「土蔵の中にも、とても豊富な当時の物品の数々、大変貴重である」と太鼓判を押してくれました。また、塩蔵・油蔵には町内外から沢山の見学者があり、私も案内役として説明を手伝いましたが、見学者は蔵の中で驚きと同時に「舟運の資料館があれば飾れるのにね」と資料館を望む声が多くありました。当日は事前にマスコミでも紹介されたせいもあって、大勢の見学者で夕方まで賑わいました。

そこで最後に資料館の振興策についての質問です。地域のコミュニティを生かした、特色ある歴史資料を展示する振興策について、町の考えをお聞きします。いかがでしょうか。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

ただいまの特色ある歴史資料を展示する振興策についてのご質問にお答えいたします。現在、町では、富士川舟運資料の収集と併せ、収集した資料や現存する文化財などの活用方法を検討しているところであります。

収集した資料等の活用方法につきましては、具体的には、文化交流拠点や学習

機会の提供を行うことができる、特色のある展示施設などの整備があげられます。

今後、資料収集をさらに進め、町の活性化や地域の振興につながる資料の活用に努めていきたいと考えております。以上であります。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問ですが、いかがでしょうか。小原屋商店の原田社長に再度の協力をいただき、この機会に町内の親子などを対象にした「舟運の歴史を学ぶ会」を提案いたします。文化財登録の建物や、蔵の中の資料とともに、町の歴史を学んでほしいと考えます。また、実施する時期については「大法師さくらまつり」の期間中などのタイミングはいかがでしょうか。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

ただいまのご質問にお答えいたします。小原屋商店の建物は、国の登録有形文化財になっております。蔵の中には舟運などの歴史が見られる貴重な資料が残されております。先ほど樋口議員もおっしゃったとおり、先日の山車巡行祭りの時にも一般公開をしていただき、多くの親子連れにも見学をいただいたというところがございます。本町の歴史文化を後世に引き継いでいくことは大変重要なことでありますし、各学校におきましても、社会科の授業の中で富士川舟運や町の歴史についても積極的に学習をしているところでもございます。

こうしたことから、今後、現存する歴史資料等の所有者の協力をいただきながら、学習機会の開催について、そのタイミングも含めまして検討していきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問になりますが、町の歴史を語り継いでいくためには、資料館の整備が必要と考えます。既存の公共の建物等を転用しての活用が実現できるような案をお持ちですか。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

ただいまの質問にお答えします。先ほども触れましたように、収集しました歴史資料の活用方法としまして、広く公開をしていくというような展示が行える場所の整備が必要かなというふうに考えているところがございます。これらの展示

施設は、新たな建物を建設してというようなことは、難しいというふうに考えておりますけれども、既存の施設の利用が有効ということも考えますので、展示可能な資料の規模等の把握を進めるとともに、既存の施設の活用についても検討を進めていきたいと考えております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問になりますが、そこで「交流センター塩の華」についてですが、中部横断道が来年全線開通すると、旧国道52号線の交通量は激減すると予測されます。商業施設という点からは、採算性からして存続は難しいのではないのでしょうか。むしろ「塩の華」は建物の造りや、周囲の景観からしても資料館としての活用が最適だと思われませんが、いかがでしょうか。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

ただいま、「塩の華」というようなご質問でございます。交流センター塩の華の建物は、国の補助金を受けて建設をしたというようなことで、その目的もでございますので、建物の用途変更等というような手続も必要になってくるのかなと思っております。また現在はご承知のとおり、株式会社富士川への指定管理により運営をされているというようなところでございますけれども、資料の展示を行う場所の一つとしては、考えられるというふうに思っておりますので、今後、施設の検討の中では考えていきたいなというふうに思っております。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

再質問です。もし実現できれば、町の歴史を子どもたちに校外授業など学習の場所として、また地域の憩いの場として、併設するオリンピックミュージアムと食堂を最大限に活かして、角倉了以の人物像や北斎、また鰯沢の落語、山梨交通「ボロ電の歴史」等などの歴史を一同に展示して、さらに山車の保存庫を駐車場に設けると、組み立てた山車の常設展示などの工夫を凝らした歴史資料館に整備する案を提案いたしますが、再度、町の考えを伺います。

○議長（井上光三君）

教育長 野中正人君

○教育長（野中正人君）

富士川町の歴史資料を集約、保存をして展示していく施設の整備というのは、必要であるというようなことで現在進めているところでございます。施設の整備

にあたっては、単にその資料を提示するというだけでなく、どういうふう
に特色を活かした施設にしていくかというようなことが重要であるとともに、施
設のコストとか運用方法というような課題も考えられることから、実現可能に向
けて、今後早急に検討を進めて参りたいと思います。以上です。

○議長（井上光三君）

2番、樋口正訓君。

○2番議員（樋口正訓君）

ぜひ、早急に検討を重ねていただきたいと思います。

終わりになりますが、富士川町鰍沢には、江戸時代初期からの舟運にまつわる
史跡が名所となり、数多く残っております。鰍沢河岸のあった明神町には了以の
功績を称える「富士水碑」があり、傍には「口留め番所」跡や、船を係留した「石」
などがあります。さらには船の安全を祈願した「七面堂」などもあり、当時の人々
の苦勞を知ることが出来ます。この素晴らしい歴史遺産を、富士川町の町おこし
の基盤として、富士川舟運資料館の早期実現を提案いたします。

以上、私の一般質問を終わります。

○議長（井上光三君）

以上で通告2番 2番樋口正訓君の一般質問を終わります。